

健幸都市くさつの推進に向けて

～草津市健幸都市基本計画の
平成29・30年度の主な取組について～

平成30年8月22日
草津市



草津市健幸都市宣言および草津市健幸都市基本計画の策定について

本市では、平成28年8月に「草津市健幸都市宣言」を行い、だれもが生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる健幸都市づくりを推進するため平成29年3月に、「草津市健幸都市基本計画」を策定いたしました。

草津市健幸都市宣言

生涯にわたって心も体も健やかで幸せに過ごせること

これはわたしたち共通の願いです

心身の健康には 自分の状態を知ること 適度な運動と休養

バランスのとれた食事など 一人ひとりの取組が大切です

美しい自然や 住みやすい都市環境も大切です

そして ともに住む人と人との絆や協働も大切です

くさつは いにしえから 東海道と中山道がまじわる交通の要衝

宿場町として栄えてきました

人と人が出会い 心と体を休め 旅の疲れを癒してきました

琵琶湖・田園などの豊かな自然環境もあり

そこから得られる 恵みも豊富です

今を生きるわたしたちも この地で 出会いと自然に感謝しながら

住み続け 訪れることで 健幸になれるまちを

ともに創造していきましょう

草津市は 生涯にわたって 一人ひとりが自らの健康を大切にし

ともに支え合い ここに暮らすことによって

絆や喜びが生まれ 幸せが感じられる

笑顔あふれるまちを目指して

ここに「健幸都市くさつ」を宣言します。

平成28年8月28日 草津市長 橋川 渉

草津市健幸都市基本計画

○ 「第5次草津市総合計画」を上位計画とし各種関連計画との整合を図りながら、市の様々な関連計画を健幸の側面から捉え、健幸都市実現のための取組を連携・強化していく計画です。

○ 「草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、本計画においても「まち」「ひと」「しごと」を切り口に、健幸づくりの取組を定めています。

○ 計画期間は、平成29から平成34年度までの6年間です。



健幸都市基本計画の体系

基本方針	基本施策	施策の内容
まちの 健幸づくり	出かけたくなるまちづくり	① 歩いて暮らせるまちづくり ② 安全・安心に配慮した公共空間の整備 ③ 賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり
	交流機会や健康拠点の充実	① 交流機会の充実 ② 健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用
ひとの 健幸づくり	地域の主体的な健康づくりの推進	① 地域の特性に応じた健康づくり ② 支え合いのコミュニティづくり
	個人の健康づくりの推進	① 全世代に共通した健康づくり ② ライフステージに応じた健康づくり
しごとの 健幸づくり	地域産業と連携した健康産業の活性化	① ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援 ② 特産物を活かした健康な食等の推進
	大学・企業等との連携	① 産学公民連携とその仕組みづくり ② 健康に関する情報提供

草津市健幸都市基本計画

基本施策 基本方針

各施策ごとの代表的な重点的な取組

《まちの健幸づくり》

- (1) 出かけたくなるまちづくり
- (2) 交流機会や健康拠点の充実

- ①コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定
- ②(仮称)市民総合交流センターの整備
- ③草津市バリアフリー基本構想の推進
- ④ガーデンシティくさつの推進
- ⑤草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施

など

《ひとの健幸づくり》

- (1) 地域の主体的な健康づくりの推進
- (2) 個人の健康づくりの推進

- ①各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進
- ②くさつ健幸ポイント制度
- ③禁煙対策、受動喫煙対策の推進
- ④地域包括ケアシステムの推進
- ⑤高齢者の社会参加・生涯活躍社会の構築に向けた取組の推進

など

《しごとの健幸づくり》

- (1) 地域産業と連携した健康産業の活性化
- (2) 大学・企業等との連携

- ①ヘルスツーリズムの開発
- ②アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDC BK)の活用
- ③健幸都市宣言賛同事業所の募集
- ④草津ブランドの構築・PR
- ⑤健幸都市くさつの啓発

など

まちの健幸づくり

出かけたくなるまちづくり

① 歩いて暮らせるまちづくり

- 都市機能や交通網を整えて、コンパクトシティ・プラス・ネットワークを形成し、歩いて暮らせるまちづくりを目指します。

② 安全・安心に配慮した公共空間の整備

- 安全・安心に配慮した公共空間の整備を進めるため、バリアフリー化やたばこ対策の推進、安全な自転車道の整備等を進めます。

③ 賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり

- 中心市街地の賑わいを取り戻し、まちなかの交流人口の増加を図ります。
- ガーデニングの取組を進め、緑あふれるまちづくりを目指します。
- 郊外部において、地域の産業・資源を活かした取組を進めることを検討します。

従来からの健康施策の枠組みを超え、ハード面からも健康づくりに取り組みます。

課題

- 自動車の過度な利用を減らし、健康づくりにつながる徒歩や公共交通による移動を増やす。
- 自動車への過度な依存は、交通渋滞を招き、公共交通の利便性の低下や衰退にもつながることから、地域の特性に応じた持続可能な公共交通ネットワークを再編する。
- 生活の利便が高い住みよいまちづくりにつながる都市機能のマネジメントなど、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方も踏まえたまちづくりを進める。

- 「草津市バリアフリー基本構想」を計画的に推進する。
- 受動喫煙防止対策について、国における検討状況も踏まえつつ、草津市内において更に取組を推進する。
- 健康につながる自転車の利用を進めるために、自転車の安全で安心な利用の周知・啓発や、自転車の走行空間の整備を計画的に進める。

- 出かけたくなるまちづくりを推進するために、地域の特性も活かした賑わいの向上に向けた取組を更に進める。
- みどりを保全、継承し、市民との協働により、みどりのまちづくりを支えながら、都市を彩るみどりを持続する。
- 郊外部における生活サービス機能の維持・向上や交通ネットワークによる利便性の向上、地域産業の振興等を図る。

まちの健幸づくり

交流機会や健康拠点の充実

① 交流機会の充実

- 様々なイベントを開催するなど、出かける機会や交流機会の増加を図ります。
- 空き家を利用した多世代交流や地域交流拠点の創出を図ります。

② 健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用

- 子どもから高齢者まで、誰もがいつでも気軽に訪れ、健康づくりを行うことができる拠点として、草津川跡地公園や各地域の公園の活用を進めます。

従来からの健康施策の枠組みを超え、ハード面からも健康づくりに取り組みます。

課題

- イベントの開催も含め、出かける機会や交流機会を増やす。
- 様々な施設を活用し、交流拠点を増やす。

- 草津川跡地公園については、誰もが健康拠点としても活用できるよう、イベントの開催を含め活用方策の検討を進める。
- 各地域の公園については、ニーズの多様化への対応を行う。



《まちの健幸づくり》重点的な取組①

コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定 【都市計画課・交通政策課】

(歩いて暮らせるまちづくり)

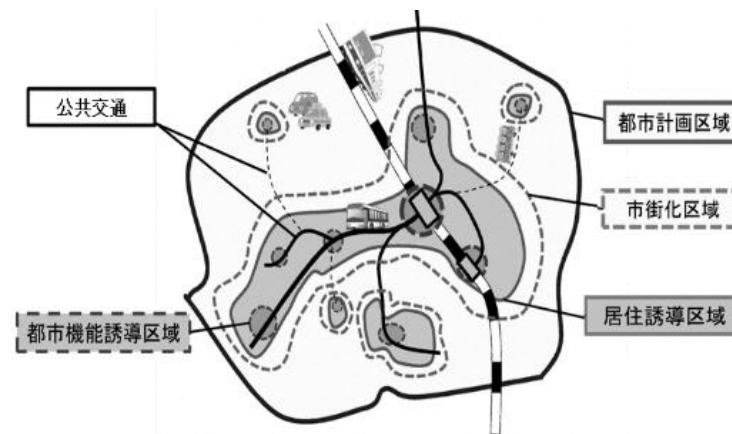
H29 新規

H30 継続

全国では、高齢化・人口減少が進む中で、地域活力の維持や医療・福祉・商業等の生活機能の確保を行うとともに、みんなが安心して暮らせるよう、公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」が進められています。

本市においても、日常生活が充足できる居住環境や、都市機能を確保できるよう、将来を見据えた都市機能をマネジメントします。

※「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」イメージ



H 29	実績	○ 都市機能や居住の誘導を目的とした『立地適正化計画』、生活・交通拠点の形成や、地域資源を活かした地域産業の振興等による持続可能なまちづくりの実現を目的とした『草津市版地域再生計画』、将来を見据えた持続可能な公共交通ネットワークの構築を目的とした『地域公共交通網形成計画』の3つの計画について、各地域との十分な調整のため公表を延期しましたが、各計画の連携を深めることもでき、より充実した内容で計画策定作業を進めることができました。
	評価・課題	○ 将来を見据えた持続可能な公共交通ネットワークを構築するための施策展開の検討に取り組みました。 ○ 今後は、草津市地域公共交通網形成計画に基づき、各学区の地域の特性に応じた具体的な施策の検討や、各個別施策の実施に向けた対応を行う必要があります。
H 30	計画	○ 7月15日～8月14日でパブリックコメントを実施。 ○ 10月の計画公表を目指して、策定作業を進めます。 ○ 地域の実情に応じた具体的な取組について、検討を進めます。

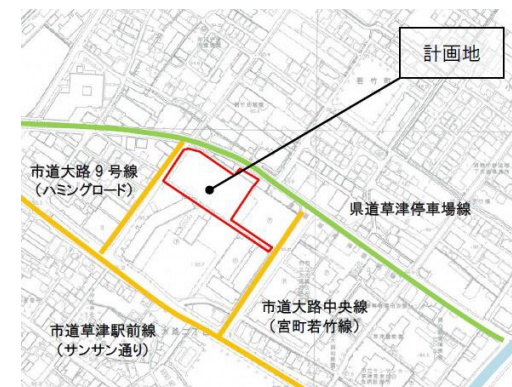
《まちの健幸づくり》重点的な取組②

(仮称)市民総合交流センターの整備 【都市再生課】(交流機会の充実)

H29 継続
H30 継続

草津駅周辺には、公共施設が独立して点在しているものの、各施設の老朽化は著しく、耐震補強等の改修工事が必要であることから、公共施設の機能集積を基本として、「中心市街地活性化のコア施設」を建設します。

中心市街地に人、モノ、情報が交流する施設整備を進め、地域の振興やまちの賑わいを創出するとともに、「子育て支援のための空間」や「多世代交流のための空間」等の新たな機能も加えて、全世代が集い、創出的で多様な活動を展開できる魅力ある都市福利施設をめざします。



H 29	実績	○ (仮称)市民総合交流センターの整備に向けて、事業用地の取得および整備を行う民間事業者の募集を行いました。
	評価・課題	○ 整備を行う民間事業者の選定については、市の附属機関である「(仮称)市民総合交流センター整備事業者選定委員会」での審議、市への答申を経て、優先交渉権者を選定しました。 ○ 市が必要とする機能を確保した施設とできるよう、今後、民間事業者が実施する設計、建設の各段階において、十分な協議・調整を行いながら、取り組みを進める必要があります。
H 30	計画	○ 優先交渉権者と必要な調整を行い、事業契約を締結します。また、民間事業者による設計・工事の推進のため、民間事業者や入居関係団体等と協議・調整を行い、事業の進捗を図ります。

《まちの健幸づくり》重点的な取組③

その他の事業

○ 草津市バリアフリー基本構想の推進【交通政策課・道路課】 H29継続 H30継続

(安全・安心に配慮した公共空間の整備)

「すべての人が心地よく移動できるまち“草津”」を基本理念とし、事業を「短期」「中期」「長期」に分け、「草津駅周辺」および「南草津駅周辺」の2地区を重点整備地区として設定し、重点的にバリアフリー化事業を実施します。



H29	実績	○ 草津駅の内方線付き点状ブロック設置工事の補助、駅周辺の市道の歩道のバリアフリー化(勾配改善、点字ブロックの修繕・新設)を進めました。
	評価・課題	○ 内方線点状ブロックの設置に伴い、駅ホームの安全性を確保しました。今後も引き続き、「草津市バリアフリー基本構想」の重点整備地区内での事業整備の進捗管理と、駅周辺の関連施策との整合を図り、整備路線の選定を行う必要があります。
H30	計画	○ 「草津市バリアフリー基本構想」の事業整備地区内での事業整備の進捗管理、駅周辺の市道の歩道のバリアフリー化(段差解消、勾配改善等)を進めます。

○ ガーデンシティくさつの推進【草津川跡地整備課・公園緑地課】 H29拡大 H30継続

(賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり)

民間ボランティア団体であるガーデニングサークルの活動を支援し、JR草津駅、南草津駅前の公共空間のガーデニングを継続するとともに、草津川跡地公園の公共空間においてもガーデニングの取組を広げます。



H29	実績	○ 延べ約1,000人の人が草津川跡地公園や草津駅・南草津駅のガーデニング活動を行いました。季節の花で彩られ、まちを歩く人や草津に訪れる人々に憩いの空間を提供できました。
	評価・課題	○ 定例の活動以外にも、シーズンごとに合わせた活動を行い、幅広い年齢層の方々によるde愛ひろば(草津川跡地公園区間5)のガーデニング活動を推進することができました。次年度以降もガーデニング活動を推進する必要があります。 ○ ガーデニング活動により、草津駅前・南草津駅前および草津川跡地公園が季節の花で彩られ、まちを歩く人や草津に訪れる人々に憩いの空間を提供できました。また、ガーデニングを通じた活動により、新たなコミュニティが形成されつつあります。
H30	計画	○ 草津川跡地公園、草津駅・南草津駅前のガーデニング活動、スキルアップ講座等を行い、新たな仲間を募り活動の輪を広げます。

《まちの健幸づくり》重点的な取組④

その他の事業

○ 草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施【健康福祉政策課・都市再生課】 H29新規 H30継続
(健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用)

草津川跡地公園等を活用したノルディックウォーキングを含むウォーキング等のイベントの実施を検討し、草津川跡地公園が、普段使いの身近な健康拠点となるような取組を進めます。

H 29	実績	○ 7/22 わくわくサマーランド(来場者数:約2,700人) 子ども向けイベントとしてキックターゲット・ストラックアウトなど。大人向けイベントとして、青空ストレッチ ○ 9/23 健幸フェア(来場者数:約1,300人) 健康をテーマにしたイベント。健康を取り扱う企業が18ブースを出展。メインステージでは立命館大学教授による講演など。 ○ 11/4 星降る映画館(来場者数:約800人) 野外上映会を実施。大人向けと大人・子ども向けそれぞれ1本ずつ上映。 ○ 3/24 春休みキッズフェスティバル(来場者数:約4,000人) ステージショー・マルシェ・ワークショップなど
	評価・課題	○ 各イベントとも、多数の来場者へ健幸都市づくりを啓発することができました。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方に参加いただき、様々なメニューのなかで、楽しく健康について学び、理解を深めることができました。参加者アンケートでは、手軽に運動できて楽しかった、健康を考え直す機会となった、などの声がありました。また、これらのイベントにより中心市街地のにぎわいが創出されたとともに、健幸に対する機運の向上にも寄与したものと考えています。 ○ 今回のイベント自体は好評でしたが、草津川跡地公園を健康づくりのための身近な拠点として普及・定着させるためには、継続して健幸づくりやウォーキングなどのイベントなどで引き続き啓発する必要があります。
H 30	計画	○ 7/21 わくわくサマーランド(来場者数:約2,500人)、 ○ 11/10健幸フェア・健幸ウォーク、 ○ 3月(予定) 春休みキッズフェスティバル



わくわくサマーランド



健幸フェア

ひとの健幸づくり

地域と個人の視点から、健康づくりに取り組みます。

地域の主体的な健康づくりの推進

① 地域の特性に応じた健康づくり

- まちづくり協議会の健幸宣言の実現に向け、各まちづくり協議会と市が協働して、地域の実情に応じた健康づくりの取組を進めます。

② 支え合いのコミュニティづくり

- 誰もが住み慣れた地域や家庭で、安心して暮らすことができる「地域包括ケアシステム」の構築を進めます。
- 地域の資源や人材を活かし、地域の課題を解決できる仲間づくりを支援します。

課題

- 地域における健康づくりをより効果的に行っていくために、地域ごとの健康特性等を理解し、それに応じた取組を更に進めていく。
- 地域と行政が協働して取組を進めていくため、市は更なる支援方策について検討を行う。
- より地域の実情を捉えた健康づくりを推進するために、地域ごとの分析や草津市国民健康保険加入者以外も含めたデータ分析を行う。

- 社会的なつながりの希薄化や更なる高齢化の進展が想定される中で、社会参加と介護予防効果の関係が指摘されていることも踏まえ、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らすことができるよう、支え合いのコミュニティづくりの取組を更に進めていく。



ひとの健幸づくり

地域と個人の視点から、健康づくりに取り組みます。

個人の健康づくりの推進

① 全世代に共通した健康づくり

- 健康くさつ21に基づく取組を計画的に推進するとともに、まちやしごとの健幸づくりの取組との連携を進めます。
- こころの健康づくりを強化する観点からも、多様化・複雑化する福祉の相談などに対応できる総合的な相談体制を検討します。
- 健康づくりに取り組むきっかけづくりを更に進めます。

② ライフステージに応じた健康づくり

- ライフステージごとの特徴や課題を踏まえた取組を進めます。
- 特に企業や保険者と連携した働く世代に対する取組や、高齢者の就労・社会参加を通じた介護予防の取組を強化します。



課題

- 「健康くさつ21」や「草津市スポーツ推進計画」について、今後もPDCAサイクルに沿って計画的に取組を進めるとともに、まちの健幸づくりやしごとの健幸づくりとも連携した取組を進める。
- 多様化・複雑化する福祉に関するニーズに対応する。
- 健康づくりのきっかけづくりについて、健幸ポイント制度の実施状況も踏まえつつ、更なる動機づけにつながるよう検討する。
- ウォーキング等の有酸素性運動や、健康バンド、いきいき百歳体操などの筋力の維持・増強につながる運動の普及を図る。
- 個人の健康な暮らしの基礎となる住まいの質の向上について検討する。
- 食事の大切さや野菜の摂取の啓発に取り組む。

- ライフステージごとの特徴や課題等を踏まえた取組を、「健康くさつ21」に基づき今後も計画的に進めるとともに、その他の取組についても更に推進していく。
- 働く世代については、誰もがゆとりを持って仕事と家庭の両立ができるよう長時間労働の是正等の働き方改革に取り組む。また、子育て中の方も多いことから、今年度開設した「子育て相談センター」の活用促進など、子育てしやすい環境整備を更に進めていく。
- 企業・団体の健幸宣言の取組も契機として、働く世代の健康づくりの取組を更に強化する。
- 高齢者の就労促進や生きがいづくり、健康の維持向上等を通じた、介護予防に向けた取組を強化する。

《ひとの健幸づくり》重点的な取組①

各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進

【地域保健課・保険年金課】
(地域の特性に応じた健康づくり)

H29 新規
H30 継続

各まちづくり協議会と市が協働して、地域の特性を踏まえた健康づくりに取り組む仕組みづくりを進めます。

■各まちづくり協議会の健幸宣言（平成28年8月28日）

H 29	実績	○ 地域保健課を設置し、地域の様々な団体等と連携し、地域の健康づくりの支援等を行う地区担当保健師を配置しました(1中学校区につき1人)。 ○ 国保加入者の健診や医療費データを基に、小学校区毎のデータ分析の作業に取り組み、保健所からの助言指導を受け、小学校区単位での健康特性の把握に必要な健康データや分析方法について検討しました。
	評価・実績	○ 次年度以降の本格的な小学校区毎の地区分析にむけ、分析作業や意見交換を行うことによって、各小学校区における健康課題やその背景の把握のためには、関係課が保有するデータの活用や、健康データの経年、男女年齢階級別の分析が必要である等、具体的な方法がわかりました。 ○ 地区担当保健師が地域の関係機関や団体、住民と協働して健康づくりの推進を行うためのネットワークづくりを更に進めていく必要があります。また、庁内関係課と、小学校区ごとの健康課題や特性の把握、健康づくりの推進に向けて情報や課題を共有する仕組みが必要です。
H 30	計画	○ 生活習慣病を中心に抽出した健康課題について、各まちづくり協議会へ情報提供を行うなど、協働による健康づくりに力を入れて進めていきます。

ち

＜健康意識の高揚＞

ちいきのみんなが健康への理解を深め、健康と幸せの輪を広げます！

い

＜生活習慣の改善＞

いつまでも健やかで幸せな生活が送れるよう生活習慣の改善に努めます！

き

＜生活習慣病等の発症予防＞

きっちり健康管理をおこない健康診断の大切さを訴えていきます！

か

＜栄養・食生活＞

カロリー等、バランスのとれた食生活を心がけます！

ら

＜身体活動・運動＞

らしく体を動かして、地域の運動習慣を広めていきます！



《ひとの健幸づくり》重点的な取組②

くさつ健幸ポイント制度 【健康増進課】

(全世代に共通した健康づくり)

H29 新規

H30 拡大

BIWA-TEKUアプリ

けん診の受診や健康づくりの取組にインセンティブを付与し、健康づくりへの「きっかけ」、生活習慣改善のための「動機づけ」、意識やモチベーションを高める「継続効果」、「波及効果」を狙います。



H29	実績	○ 健幸ポイントについて、若い世代を含め更に多くの方に利用いただくため、アプリの運用や広域での取組について検討する中で、協会けんぽ滋賀支部および東近江市・大津市・草津市の包括協定の枠組みを活用し、共同による多種多様な健康づくりに対応するウォーキングアプリを開発し、平成30年1月10日より、県内10市町によるBIWA-TEKUアプリの運用を開始しました。
	評価・課題	○ 紙媒体によるくさつ健幸ポイント制度の参加者は827人(前年比11%増)で、健康づくりに取り組むきっかけづくりにつながりました。幅広い世代を対象に、より手軽に健康づくりに取り組めるよう制度拡充ができました。 ○ 健康づくりに取り組むきっかけづくりとして、幅広い世代を対象に、くさつ健幸ポイント制度・健康推進アプリの周知啓発を図ることができましたが、引き続き、行動変容の動機づけや意識の向上と継続につながるよう、健康づくりに取り組む人を増やすことが必要です。
H30	計画	○ けん診の受診や健康づくりの取組にインセンティブを付与し、健康づくりに取り組むきっかけづくり、生活習慣改善のための行動変容の動機づけや意識の向上と継続につながる効果を目指します。 ○ イベント等において積極的にBIWA-TEKUアプリの周知啓発を図り、健康づくりに取り組む人を増やします。 ○ 体重・血圧などのバイタルデータが管理できるようにアプリ改修を行い、機能拡充していきます。 ○ 平成30年7月末現在アプリ登録者数: 8,814人(うち草津市、954人)

《ひとの健幸づくり》重点的な取組③

禁煙対策、受動喫煙対策の推進 【生活安心課・健康増進課】

(全世代に共通した健康づくり)

H29 拡大
H30 継続

禁煙しようとする市民を支援し、喫煙者の減少を目指します。また、喫煙や受動喫煙等の防止について普及・啓発を行います。

H 29	実績	○ 路上喫煙禁止区域内の啓発活動を年間156日実施しました。 ○ 4月と11月に草津駅・南草津駅のマナースペースの実態調査(利用者数調査)を行いました。 ○ 5・8・11・2月に草津駅・南草津駅で路上喫煙率(歩行者に占める喫煙者の割合)を調査しました。 ○ 健幸都市宣言賛同事業所へ「健幸くさつチャレンジ禁煙事業」への参加を呼びかけ、4事業所10人が禁煙に成功しました。 ○ 各種啓発活動を行いました。 ・路上喫煙禁止区域内での啓発活動 ・草津駅で路上喫煙防止啓発を実施 ・イオンモール草津で協会けんぽと連携し、スモーカーライザー等による禁煙啓発 ・市内保育所等で保護者へ受動喫煙防止リーフレット等の配布 ・母子健康手帳交付時、すこやか訪問時に啓発綿棒・リーフレットの配布 ・乳幼児健診時、啓発リーフレットの配布・啓発DVDの映写
	評価・課題	○ 各機会をとらえて禁煙、受動喫煙防止啓発することができました。 ○ 実態調査では、現状把握ができ、今後の取組の参考となりました。 ○ 啓発活動や実態調査の状況を踏まえ、喫煙マナーの向上と路上喫煙の防止に関する継続的な啓発を行う必要があります。 ○ 禁煙対策・受動喫煙対策の推進のため、引き続き、禁煙したい方への支援を実施し、募集事業所の拡大を図ることで、喫煙者の減少を図ることが必要です。また、喫煙や受動喫煙、COPDや未成年者、妊婦の喫煙防止についても、引き続き、普及・啓発が必要です。
H 30	計画	○ 引き続き、各種啓発活動を行います。 ○ マナースペースの実態調査を行います。 ○ 歩行者に占める喫煙者の割合を調査し、路上喫煙率の現状把握に努めます。 ○ 禁煙推進事業「健幸くさつチャレンジ禁煙事業」について、今年度は、市内医療機関や市内特別養護老人ホームなどへ対象を拡大し、実施応募期間も7～10月末までの随時募集へと変更し、禁煙したい人の支援を行います。



《ひとの健幸づくり》重点的な取組④

その他の事業

○ 地域包括ケアシステムの推進【長寿いきがい課】（支え合いのコミュニティづくり）H29拡大 H30継続

地域で安心して医療・介護サービスを受けることのできる基盤づくりとしての医療・介護連携の推進、関係機関と連携した認知症施策の推進を図るとともに、介護予防・生活支援サービスや介護サービスの充実を図ります。また、介護予防・日常生活支援総合事業においても、機能回復訓練等の高齢者本人へのアプローチだけではなく、いきいき百歳体操など要介護度等によって区別されない住民運営の通いの場の充実や、生活支援コーディネーターの配置を通じた地域づくりなど、高齢者本人を取り巻く環境づくりを進めていきます。

H 29	実績	○ 在宅医療と介護の連携の推進、認知症に関する正しい知識の普及・啓発等
	評価・課題	○ 在宅医療推進地域リーダー会議等を通じて、医療と介護の連携を進めましたが、今後、さらに在宅療養が必要となる高齢者の増加が見込まれることから、多職種の連携体制を強化し、医療と介護を一体的に提供できる体制を構築していく必要があります。 ○ 認知症施策について、計画的に取組みを進めることができましたが、「認知症があっても安心して暮らせるまちの実現」に向け、引き続き、各施策を進めていく必要があります。 ○ 介護予防・生活支援サービス事業の円滑な移行を図ることができました。また、適正な介護サービスの提供体制に努めることができました。今後も引き続き、必要な方に必要なサービスが適切に提供される環境づくりに努める必要があります。 ○ 各種事業を通じて、地域や団体におけるサロン活動や見守り活動の取組みは進みましたが、各関係機関や団体、地域住民が連携して高齢者を地域で「見守り・見守られ」、「支え・支えられる」ネットワークづくりを進めていく必要があります。 ○ 元気な高齢者が地域での助け合い・支え合い活動の主体として活躍できる仕組みをつくり、高齢者の社会参加の促進に向けた取組みが必要となります。
H 30	計画	○ 地域ケアネットワークの構築、助け合い・支え合い活動の充実等に関する取組の推進

○ 高齢者の社会参加・生涯活躍社会の構築に向けた取組の推進【健康福祉政策課・長寿いきがい課】

（ライフステージに応じた健康づくり）H29新規 H30継続

生涯活躍社会の構築に向け、地域活動やボランティアへの参加、就労等、高齢者の様々な生きがいづくりや社会参加の仕組みについて、検討を進めます。

H 29	実績	○ 退職後の社会との関わりや生きがいづくりを目的として、市内の社会参加メニューを紹介するリーフレットの作成、介護予防の取組への支援等
	評価・課題	○ 計画通りリーフレットを作成しました。作成したリーフレットをどのように活用していくかが、今後の課題です。 ○ 介護予防に取り組む団体や地域サロンへの活動支援、サポーターや脳活リーダーの養成により、高齢者の介護予防や自立、社会参加の促進につながりました。体操団体や地域サロン等、地域の身近で集える場は増えていますが、継続参加者や新規参加者の減少、男性参加者の少なさ、体操等活動へのマンネリ化意識といった団体からの声もあり、各団体の継続に対する支援も必要となります。
H 30	計画	○ 国民健康保険加入者説明会「(仮称)ようこそ国保へ」での紹介等リーフレットの活用、介護予防の取組への支援等



しごとの健幸づくり

産学公民が連携し、健康になれるまちづくりを進めます。

地域産業と連携した健康産業の活性化

① ヘルスツーリズムを含むヘルスケア ビジネスの育成支援

- 市の様々な観光資源や歴史遺産等を活かして、ヘルスツーリズムを含む健康産業の育成支援を検討します。

② 特産物を活かした健康な食等の推進

- 身近な農産物のPRを進め、地域産業の活性化や地産地消、野菜摂取量の増加を促す取組など、健康と産業の連携を進めます。

課題

- ヘルスケアビジネスを創出するため、まず市の課題やニーズを洗い出し、それらの解決につながるサービスを検討する。
- 医療・介護機関等との連携を強化する。

- 草津産農水産物を市内で購入できる機会が限られているため、市民が草津産農水産物を手に入れやすい環境の整備や、消費者に分かりやすい情報提供を行う。
- 積極的な野菜摂取の啓発等の取組を行う。



しごとの健幸づくり

産学公民が連携し、健康になれるまちづくりを進めます。

大学・企業等との連携

① 産学公民連携とその仕組みづくり

- 市内の団体や企業、大学とともに、産学公民連携による健幸都市づくりを進めます。
- 労働者の健康増進やワーク・ライフ・バランスの推進を図ります。

② 健康に関する情報提供

- 各種媒体を利用して積極的な広報活動を進め、様々な団体・企業等と連携して積極的に情報発信を行います。



課題

- 市の特性を活かし、大学や企業・団体と連携して、効果的に健康づくりを推進していく。

- 健康づくりは、日ごろからの意識づけが大切であることから、定期的・効果的な広報活動を行う。
- 積極的に行動しないと情報が得られない状態ではなく、日常の何気ない場面で健康づくりを意識できるような環境づくりを行う。

《しごとの健幸づくり》重点的な取組①

ヘルスツーリズムの開発 【企画調整課・商工観光労政課】（ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援）

H29 新規
H30 継続

東海道と中山道が合流・分岐する出会いのまちとして、自然環境や歴史遺産、地元食材や健康産業など、様々な地域資源の連携を含め、訪れることで健幸になるヘルスツーリズムの実施を検討します。

H 29	実績	○ 「草津市版ヘルスツーリズム」の実施に向けて、以下のとおり、調査・検討を行いました。 ・地域資源リスト等の作成 ・関係者を交えたワークショップの開催 ・モニターツアー（日帰り・1泊）の開催：プレス向け・一般向け各2回、計4回 ・平成30年度以降のツアー案の作成
	評価・課題	○ 事業開始初年度として、地域資源の掘り起こしやワークショップ等による受入側との関係づくり、プレス関係者を通じた「草津版ヘルスツーリズム」の情報発信、一般参加者向けのモニターツアーの開催など、計画どおりの事業進捗を図ることができました。次年度以降、継続的にツアーを実施できるよう、平成30年度以降のモニターツアー案を複数案作成することができました。 ○ モニターツアーの申込者数が当初の見込みよりも少なかったことから、次年度に向けては、本市の取組についての情報発信の手法が課題です。
H 30	計画	○ 昨年度の基礎調査をもとにモニターツアーを実施・分析し、自走化へ向け方向性を検討します。

五感をフルに使って草津を感じよう！【日帰りコース】（平成30年1月29日（月曜））

行程表（シニア向けコースとして実施）※一般向け

日	時間	内容	場所
1月29日 （月曜）	9時	集合	JR草津駅
	9時15分	健康診断 （胃がんリスク、生活習慣、動脈硬化から選択） 専門家によるミニ講座	草津川跡地公園 de愛ひろば
	10時30分	ノルディックウォーク講習 ノルディック歩行体験・散策	草津川跡地公園 de愛ひろば
	12時30分	健幸昼食 （草津産野菜たっぷりサンド・かぼちゃのスープ ・焼き立てパン、など）	ベーカリー & カフェ 脇本陣
	13時45分	健康発酵食品のお話（酒試飲等）	太田酒造
	15時15分	たび丸健幸体操 健康ストレッチ体操（ロコモ予防） 注釈1	草津川跡地公園 de愛ひろば、他
	17時	解散	JR草津駅

注釈1 「ロコモ」とは、運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態を「ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ）」といい、この症状が進行すると、介護が必要となるリスクが高くなると言われている。



《しごとの健幸づくり》重点的な取組②

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の活用

【草津未来研究所・健康福祉政策課】(産学公民連携とその仕組みづくり)

H29 新規

H30 継続

「歩いて暮らせるまちづくり」をテーマに、産学公民連携により、それぞれができることを中心に協調しながら、進めていく仕組みづくりを行います。

H 29	実績	○ アーバンデザインスクールや未来創造セミナー等により、健幸都市の実現に向け、様々な切り口でテーマを設定し、セミナーを20回実施し、延べ508名の方に参加いただきました。 ○ 協会けんぽと連携し、JR南草津駅の階段に、階段の利用を促すデザインを施しました。デザインは包括協定を締結する大学と連携し、UDCBKで公開コンペによる審査・選考を行い、決定しました。
	評価・課題	○ 平成29年度は都市空間デザインの観点から未来の健幸都市のイメージを共有することが中心だったため、具体的な個人の健康改善に役立つという視点が弱く、セミナーやスクールに参加した産学公民それぞれの立場の人々がつながり、健幸都市づくりに向けての具体的な活動まで至りませんでした。今年度は「健幸づくり」に結びつく活動(サービスや技術)から、都市空間デザインを考える構成に改めてセミナーを企画することとしました。 ○ また社会実験事前調査事業においても大学の知見を健幸都市づくりに十分に活かすことができるよう、健幸に結びつくテーマを設定し、公募を行うこととしました。
H 30	計画	○ 引き続き、アーバンデザインスクールや未来創造セミナー等により、健幸都市の実現に向け、様々な切り口でテーマを設定し、セミナーを実施します。 ○ 健幸都市づくりの協定を締結しているオムロンヘルスケア株式会社との関連でオムロン株式会社の社員を講師に、未来を創るひとの健幸づくり～IoTが創るみらいのカラダ・健康～をテーマにセミナーを開催します。



南草津駅階段デザイン

健幸都市宣言賛同事業所の賛同状況 【健康福祉政策課】

(産学公民連携とその仕組みづくり)

H29 新規

H30 継続

協会けんぽの健康アクション宣言募集や、7月に行う人権啓発の事業所訪問等と連携し、健幸都市宣言への賛同の募集を行っています。

H 29	実績	○ まちづくり協議会の健幸宣言 14学区 ○ 健幸宣言事業所 28団体 ○ 健幸宣言賛同事業所 74団体 ○ 合計116団体(前年比38増)
	評価・課題	○ 様々な方法で募集をし、多くの事業所に賛同してもらうことができました。 ○ 賛同事業所をどのように巻き込んでいくかが課題です。
H 30	計画	○ 人権啓発の事業所訪問の際に募集を行い、引き続き賛同事業所の増加を目指します。 ○ 合計152団体(7月末現在、36団体増)

《しごとの健幸づくり》重点的な取組③

その他の事業

○ 草津ブランドの構築・PR【農林水産課】（特産物を活かした健康な食等の推進）

H29継続 H30継続

草津ブランドを中心に、草津産農産物のPRに向けた取組を推進します。

愛彩菜



H29	実績	○ 草津野菜マルシェ(参加者約1,500人)・市役所マルシェ・草津あおばなフェスタ(参加者約1,000人)・、ホンモロコ販売会等のイベントで、草津ブランド・草津産農産物のPRやPR支援を行いました。マルシェでは、健康増進課と連携し、食育やレシピ紹介等を行い、より効果的に啓発することができました。また、販売経路の拡大(市内小売店2か所、市役所マルシェ4回開催)を進め、草津産農産物の入手機会を増やすことができました。各種PR活動の結果、メディアにも多数取り上げられ、多くの方へ情報発信することができました。
	評価・課題	○ 各種マルシェでは、健康増進課との連携等により、食育やレシピ等を用いて、より効果的な啓発を実施できました。 ○ 販売拠点の拡大により、草津産農産物の入手機会を増やすことができました。 ○ 各種PR活動の結果、各種メディアにも多数取り上げられ、草津ブランドや草津産農水産物について多くの方に発信することができました。 ○ 今後は、体系的な情報発信を行っていくためのプラットフォームの構築と付加価値の向上につながる取組を検討する必要があります。
H30	計画	○ 草津ブランドの構築・PRに向け、草津野菜マルシェなどのイベント開催等

○ 健幸都市くさつの啓発【健康福祉政策課】（健康に関する情報提供） H29継続 H30継続

様々な機会を通して「健幸都市くさつ」の普及啓発を進めます。



H29	実績	○ 健幸都市くさつシンポジウム(有識者による講演・企業団体による取組発表等)や、草津川跡地公園での健幸イベント、事業所訪問や、ごみ問題を考える草津市民会議との連携により、3010+運動の啓発を行いました。多くの事業所に、食堂や掲示板へチラシを設置してもらうことができ、啓発を拡げることができました。
	評価・課題	○ 健幸都市くさつの啓発を進めるため、イベントや事業所訪問など、多くの取組を行うことができました。 ○ シンポジウムについては、参加者アンケートによる基調講演もパネルディスカッションも好評であり、健康への理解を深めることができましたが、参加者については、元から健康意識が高い人が多く、健幸へ無関心な層をどう巻き込んでいくかというところに課題が残りました。
H30	計画	○ 事業所訪問やごみ問題を考える草津市民会議との連携による3010+運動の展開、草津川跡地公園での健幸イベントの開催等。